

初あがたさん



「初あがた祭」に思う

初あがた祭子供神輿会 会長 上田 邦夫

お正月の祭りとしては誠に珍しい「初あがた祭」。江戸時代から連綿と続き、子供神輿として、この“中宇治地区”に伝わってきました。

1月5日、今年は日曜日ということもあり、保護者の方（とくにお父様方）の参加も多くあり、神輿、獅子舞、触れ太鼓の面々、合わせて160名を超える盛大なものになりました。出発前は、“この笛吹くや会”の皆さんの賑やかなパフォーマンスで盛り上げていただき、居合わせたお参りの方も見惚れて拍手喝采、境内は最高潮に！

思えば、子供たちの減少で存続も危ぶまれた時期もありましたが、幸い地元・菟道校区子供会連合会の多大なご協力を得て、その危機を乗り越え、現在に至っています。

「お正月の5日は初あがた」と、子供たちから子供たちへと伝わっていく。神輿巡行を知らせる触れ太鼓が町中に鳴り響き、法被をまとった子供たちの「ワッショイ」の元気な掛け声がこだまする。町角では笛や太鼓に獅子が舞い、境内には立ち並ぶ露店にあふれる人々が・・・、そんな勝手な「未来絵図」を描きながら、これからも微力ながらお手伝いさせていただこうと思っています。

【右上の写真は今から50年前の「初あがた祭」の神輿巡行のものです先頭に可愛らしく綱を引っ張っているのが、当時菟道小5年の時の私です。モノクロですが赤い法被を着ています。ああ懐かしい。】

「初あがた子供みこしに参加して」

3年 大くま 元き

ぼくと弟と少し早く行きました。後でお兄ちゃんも来ました。まっているのが少し寒かったけど、遊んでまっていた。

みんなが集合して、おみこしを引っぱって出発しました。「ワッショイ」「ワッショイ」のかけ声で引っぱりました。きよりは長かったけど、いろんな所を通過して良かったです。

神社に帰ってから、カップラーメンやおにぎり、図書カードなどたくさんもらってうれしかったです。来年も参加したいです。



「初あがた」

4年 黒田 結生

私は、今回で初あがたに参加するのは2回目です。今年もとっても寒かったです。最初に受付をすませて、ハッピーと豆しぼりとすずをもらってじゅんぴをしました。おはらいをしてもらった後、元気に出発しました。私は、妹と友達とみこしを引っぱりました。

「わしよい、わしよい」とかけ声をかけながらみんなでみこしをがんばってひっぱりました。最初は、とても寒かったけどだんだん温かくなってきました。休けい場所で温かい飲み物をもらってもう少しがんばろうと思いました。見ている人も「わしよい、わしよい」とおうえんしてくれました。県神社につくとお手伝いの方が、おにぎりやぜんざいを用意して待っていてくれたのでつかれが吹き飛びました。

たくさん歩いてつかれたけど、とてもいい思い出になりました。来年もぜひ、参加したいです。

「ししまい」

6年 中山 菜々美

私は平成26年1月5日の初縣でししまいをしました。私は黒じしに入りました。最初は、はずかしいし、どうしていいかわからなかったので、動きが小さくてまったくはく力に欠けるししまいになってしまいました。けどししまい担当のキャサリンとルーシーとバービーのキャサリンにアドバイスをもらって、だんだん回数を重ねるごとに、動きも大きくだいたんにとってもかっこいいししまいになっていきました。見てもらった人には、とってもかっこよかったと言ってもらって、はじめてとってもうれしかったです。

移動中に小さい男の子が、じーっと見ていて、その子に、ししまいをまうと、男の子は泣いてにげてしまいました。ちょっと悲しかったです。そして、生長の家では車からおりたときから写真をとられていると聞いて、みんなピシッとしていて、生長の家に来ていた人にいっぱい写真をとってもらいました。とても貴重な体験ができてよかったです。

「たいこ」

6年 藤岡 真名美

私は、太鼓を初めてやりました。今までは、おみこしを引っぱって、がんばって菟道小学校の校区をまわったんだけど、そっちの方もいがいと楽しかったと思う。太鼓のほうは、車のうしろにのってやるから、楽でいいなあと思っていたけど、たたくタイミングなどがむずかしかったから、簡単じゃないことがよく分かった。太鼓は太鼓の良さがあり、みこしはみこしの良さがあり、それぞれの良さを引き出すことで、もっと良い、初あがたの行事が出来るんじゃないかと改めて分かったし、太鼓は、みこしの前に行って、みこしが来るという合図なんだと、きちんとその意味を分かることもできた。本当にきちょうな体験が出来たと思う。

「あの頃の自分と比べて」

6年 前多 天斗

「ししまいかあ〜」 そう思ってぼくはししまいに立候補しました。そして1月5日ぼくは人生初めてのししまいをした。

ししまいを見ていると軽々動いていて楽そうに見えるけれど実際に持って踊ってみるととても重かった。でも前より軽いらしい。ぼくがししまいを選んだ理由それは少しみこしより楽そうだったからだ。でもそれは初めだけ。みんなと一緒に歩いているととても楽しくなっていた。

初あがた終了後、家に帰ってあることを思い出した。それは幼稚園の時、ししまいがこわかったこと。ししまいがこわい六年生がいなのは当然だ。しかしあの頃の自分と比べてみれば自分だけできることが増えている。このししまいの経験は、あの頃の自分と今の自分を見比べ、成長が実感できる機会でもあった。

「初県心をつなぐ獅子舞」

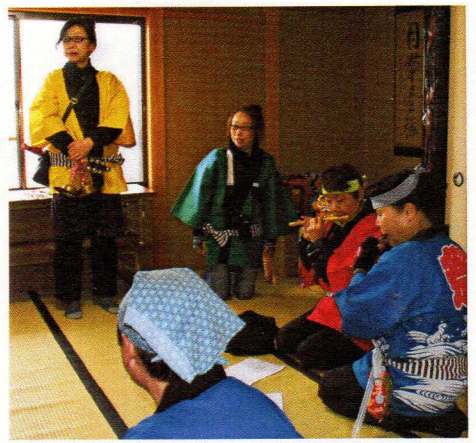
この笛吹くや会 藤本 建

初県〜 一指し舞うて恙無しい〜

トンカカトントン、カットントン 太鼓に篠笛の響き重なり、獅子舞の奉納。初春に目覚めた獅子、あがたの様子を伺い、立ち上がり、右へ左へ。やがて神の力を授かるかのように激しく逞しく舞い上がる。



輝き始めた獅子、子供たちへ手渡され、門付けへ。今年も多くは6年生が参加。女の子たちも。トンカカトントン、カトントン。氏子さんのお宅へ、招いていただいたお宅へ、お店へ。玄関先、お店の中。狭く動き取り難いところ、子供たち獅子となって。お囃子に合わせ、縣さんと皆様を繋ぎます。宇治橋の袂、獅子三疋揃い、足止め、輪となった皆様の一年を願い、ダイナミックに舞い、寒風と川波に負けじと輝きました。今年も多くを繋いだ獅子舞。子供たちも、心片隅に、その高ぶりと輝きを持ち続けゆくことでしょう。時を超えいつまでも。



「初あがた祭によせて」

初あがた祭子供神輿会役員 小島 確二

私は子供の頃、一月五日の初県さんにお参りした事があります。その当時は、露店が多く出ている、当て物やおやつを買ったおぼえがあります。その頃は、みこしが出ているのは知りませんでした。

私の子供が小さい頃に、少年補導委員をさせて頂いた時、境内でお湯を沸かし、カップラーメンを作るお手伝いをしていた時に、子供神輿があるのを知りました。あれから二十年位が過ぎて、まさかみこしの手伝いをさせてもらう事になろうとは思いませんでした。

舵取りのお手伝いに参加するとの事で当日させてもらったのですが、日曜日という事もあって多くのお父さん

方にお手伝いいただきました。消防団の時に一緒に活動してくれた伏見君もいてくれ、ほとんど彼が舵を取ってくれました。私は初めてのお手伝いという事もあって、ただついて歩いていただけでした。来年は今年よりお役に立てるよう、舵取りに専念させて頂くつもりです。皆様御指導の程よろしくお願ひ致します。

「初縣」

子供会連合 黒木 香

初縣に参加して今年で三回目になります。ここ数年、1月が近づくと息子たちは「今年もお神輿引ける？」と聞いてきます。我が家は、お宮参りや七五三で縣神社にお参りすることも多く、縣神社は顔なじみのようになっています。

今回は子供会の世話役として参加させていただき、いろいろな方に支えられて、初縣が行われていることを改めて実感しました。今年も参加人数が多く、全校生徒の約三分の一が参加しました。お正月早々、1年生から6年生までの子供達が、力を合わせながら宇治の街中を、獅子舞や太鼓、神輿を引きながら歩き、時には観光客に写真を撮られ恥ずかしそうにしているのが、とても印象的でした。

来年も、いや多分、下の子が卒業するまで、初縣に参加させていただきたいと思っています。

「初あがた祭によせて」

初あがた祭子供神輿会役員 古賀 則行

初あがた子供みこしで、獅子舞いの係りを担当させていただいて2年目の新人です。

昨年初めて受け持った時には、受け持ちのルートがよく理解できず、右往左往してしまい、関係者の皆さまにはご迷惑をお掛けしてしまいました。その反省も踏まえ獅子舞い係の皆さまと打ち合わせを

させていただき、単純明快でスマートなルートに変更していただきました事、感謝しています。おかげさまで、2年目は各班との連絡調整もうまく取れて、比較的スムーズに進行出来たのではないかと考えています。獅子を舞ってくれる子供たちも、今年も女の子でしたが上手に後半は若干クタクタになりながらも最後まで頑張ってくれました。キャラと音で盛り上げて下さる“この笛吹くや会”の皆さま！一緒に回っていても心強く、いつもこちらが元気をもらいます。この祭りにはなくてはならない存在だ！と皆思っていると思いますが、私も勝手にそう思っています。少子化の昨今、祭りに参加してくれる子供の人数が増えてきています。これはあがた神社田鍬宮司様や上田会長様をはじめ役員の方々の皆さまの努力の賜物に他ならないと感じています。私も微力ながらではございますが、これからもお手伝いできればと思います。今後ともよろしくお願ひ致します。





「私と大幣さん」

大幣座 幣差

森岡俊成

私が大幣さんに参加するようになって30年がたちます。幣差として30年、古くは小学生の時に
 出た事を含めると40年……。子供の頃に見た、父や幣差の走る姿が勇ましく、カッコよく見えて、
 大人になったら参加したいと思った事を思い出します。

30年で宇治橋も新しくなったり、大幣殿も新築されたり色々な事がありました。今では幣差の中
 でも古い方になって来ました。息子より若い子が参加して祭りをもり上げてくれています。今年で私
 も50歳になり、さすがに走れなくなり少しさびしい思いです。

何歳まで参加できるかわかりませんが、長い歴史ある祭の一端を仲間達と参加出来る事を誇りに思
 います。この祭がこれからも末長く伝承される事を願います。

